

# 労働安全衛生広報 2012. 8月号掲載（労働調査会発行）

## ニュースレポート

### 発注者、施工者が一堂に会し安全シンポジウム開催

◆建災防福岡県支部直方分会

全国安全週間を前にした6月21日、建設業労働災害防止協会福岡県支部直方分会（谷口正晴分会长）が「安全と技術に関するシンポジウム」を開催した。建設業者をはじめ、公共工事の主要な発注機関、労働基準監督署が一堂に会しての安全に関するシンポジウムは全国的にも珍しい取り組み。会場となった国土交通省遠賀川河川事務所・水辺館には約170人の関係者が参集して、熱心な安全討議が繰り広げられた。

冒頭、あいさつに立った谷口分会长は、「安全第一」のいわれを引きながら安全活動の重要性を強調し、今回の取り組みについて「安全は品質の向上、生産性の向上につながるもの。実効あるシンポジウムにしたい」と説明した。

基調講演では、福岡労働局の橋本信夫安全課長が福岡県内の建設業における労働災害の現状を分析するとともに、「発注者、施工業者、安全管理に関する関係行政機関が労働災害が発生する原因対策について認識を共有し、今後の労働災害防止の取り組みが一層円滑に実施されるきっかけになるように」と期待を寄せた。

次いでパネルディスカッションに移った。パネラーは山田一成直方労働基準監督署長、深町弘幸国土交通省遠賀川河川事務所副所長、義経俊二福岡県直方県土整備事務所長、篠原和弥直方市上下水道・環境部長とともに、谷口



パネラーが会場からの質問などについて丁寧に説明（上）。会場からは災害防止対策などについて質問が寄せられた（下）

分会长が務めた。

交通事故防止や重機事故防止重点対策、足場や法面からの墜落防止重点対策、安全活動の評価、危険予知訓練、実際の安全活動などの課題に対して、会場からの質問にパネラーが応えるかたちで進められた。

最後に、「労働災害絶滅のため、

1. リスクアセスメント、KY活動実施の徹底

2. 重機災害防止の徹底

3. 墜落、転落防止の徹底

——を重点に経営トップをはじめ関係者が一丸となって労働災害防止活動に取り組みます」と安全の誓いを参加者全員で高らかに唱和して閉会した。